

しんじょう

2006.12.1
すさき・かわうそ
クラブ会報
—No. 6—
発行：すさき・
かわうそクラ
ブ事務局

「韓国カワウソ研究センター」の南(ナム)さんらが須崎市を訪問

9月13日(水)、韓国江原道(カンウォンドウ)華川(ファチョン)郡にある「韓国カワウソ研究センター」の南(ナム)さんら2名が須崎市を訪れました。

南さんは、「韓国カワウソ研究センター」の職員で、カワウソの生態調査などを行っています。

センターには親からはぐれた小さなカワウソや、傷ついたカワウソなど、保護されたカワウソが全国からやってくることで、そういったカワウソたちの飼育なども行っています。

その他、一般の方を対象とした環境教育や、飼育しているカワウソの一般公開なども行っているとの事でした。

南さんらは、2007年10月10日から16日までの

7日間、韓国江原道華川郡で開催される「第10回国際カワウソ討論会」のPRと、日本で最後にカワウソが確認された須崎市の視察などを目的として来日されました。

国際カワウソ討論会は、3年に1回開催されており、前回はアメリカのメリーランド州で開催され、約50カ国から400人の参加があったとお聞きしました。

討論会では、研究者らによる専門的な内容のものから、一般の方でも参加できる内容のものまで、カワウソに関する様々な事が討論されるそうです。

1時間ほど意見交換を行った後、新莊川を見にいきました。現在の新莊川は、治水工事などにより、カワウソが見られた頃から比べると、随分変化しています。

韓国では、河川工事をする際、できるだけコンクリートなどは使用せず、自然に近い形で行い、そこに暮らす動植

物にもやさしい環境を守っているとの事でしたが、それでも野生のカワウソは年々減少しているそうです。

しばらく新莊川を眺めながらお話をし、この後、南さんたちは京都に向かわれるとの事でしたので、旅のご無事をお祈りしつつお別れしました。

The 10th International Otter Colloquium 2007 Hwacheon, South Korea

「第10回 国際カワウソ討論会 2007」

開催期間：2007年10月10日～16日
開催場所：韓国江原道(カンウォンドウ)華川郡(ファチョン)郡
主催：IUCN/SSC Otter Specialist Group (OSG)
華川郡
ホームページ：<http://www.otter2007.org>

第3回 すさき野外博物館開催

かわうそそのまちづくり事業の一環として実施している「すさき野外博物館」は、今で3回目となりました。

第3回「渡り来る冬鳥たち」

11月25日(土)午前10時から、新莊川の河口で実施しました。講師には、四国自然科学研究センターの谷地森秀二先生をお迎えし、新莊



望遠鏡で観察する参加者たち。

川河口に生息する渡り鳥たちの観察を通じ、須崎市に現存する自然環境について学習しました。

新莊川の河口には、冬になると北国から多くの「冬鳥」たちが越冬するためにやってくるそうです。冬鳥とは、春から夏の間を北国で過ごし、秋になると南へやってくる渡り鳥をいいます。

新莊川の河口は、高速道路が延伸するため工事が行われており、少しずつ環境も変化しているようでしたが、思った以上の鳥たちが生息していました。冬鳥では、「ヒドリガモ」「マガモ」「カルガモ」などが確認され、中でも、ヒドリガモが多くみられました。カモは、主に池や湖、河口などの草地にやってきて、木の実や穀物、水草や海草、藻



川沿いにある稲刈り後の田んぼ。望遠鏡で観察するとマガモの群れが食事の真っ最中。



ヒドリガモ (中央・右: オス 左上: メス)



カモのフン。形がはっきり残っている。

などを食べているそうです。
ヒドリガモのオスは、緋(ひ)色の頭に額から頭のとっぺんにかけてクリーム色をしており(モヒカンっぽい)、体は灰色っぽい感じです。メスは、全体的に茶色っぽく地

味な感じですが。見分けはすぐにつきます。

みんなメス？

普段は見分けがつきやすいカモたちですが、日本にやっ



オス、メス?、オス、オス、メス?、メス?、オス、メス?...

てくる9月から10月頃は、

オスはメスのような地味な羽色をしているそうです。一見すると、みんなメスに見えてしまいます。やがて、オスの羽は生え変わり、メスとペアをつくり、群れの中でもペアで行動するようになります。羽の変え変わるのが遅いオスは、いつまでたってもペアができません

いこの事でした。

その他にも、「ウミネコ」



ウミネコの群れ。潮が引き浅瀬になったところで魚を狙っている。

「ユリカモメ」「アオサギ」など、たくさんさんの鳥たちを観察することができました。



河口やその周辺に目を向けると、ポイ捨てされた空き缶やビニール、トタンなど、色々なゴミが点々としていました。こういった問題は、一人ひとりがマナーを守る事で解決できる問題です。今、当然のように保たれている環境も、ちょっとした事の積み重ねで崩れてしまう可能性もあります。須崎市が他の生き物と共生できる環境にやさしいまちになるよう、みんなで心がけましょう。

おしどり夫婦の実態

とても仲のよい夫婦を「おしどり夫婦」と言ったりします。

しかし、オンドリのペアは毎年相手を替えるという事をご存じでしょうか。

実は夫婦仲がいいのは繁殖期だけで、メスが卵を産むと、オスは子育てを全てメスに任せ、他のメスと関係を持つこともあるそうです。

ある鳥類研究家がオンドリのペアを観察していると、オスがふとどこかに行くので、そのあとを尾けてみると、他のメスとも巣を構えていたそうです。びっくりですね。

今後の予定(18年度)

すさき野外博物館は、下記の内容を予定しています。詳しい内容や日時などは、広報や、各公民館・学校などに配布するチラシでお知らせします。みなさんお誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください。

第4回 冬に卵を産むカエルたち(2月)

「すさき・かわうそクラブ 会員募集中」



「すさき・かわうそクラブ」では、かわうそのまちづくりを応援して下さる方を募集しています。詳しくは、事務局までお問合せください。また、かわうそのまちづくりに関するご意見・ご質問などもお待ちしております。

(事務局) 須崎市企画課 〒785-8601 高知県須崎市山手町1-7
TEL 0889-42-5691 FAX 0889-42-7320
E-mail kikaku2@city.susaki.kochi.jp